



も く じ

- ▶ キャラクター紹介
- ▶ 長崎の復興の歩み
- ▶ おすすめコースの紹介
- ▶ 被爆建造物等MAP（爆心地周辺）

★ キャラクター紹介 ★

しょう平くん



和みちゃん



最近長崎に引っ越してきた仲良し兄妹。
一緒に長崎の被爆遺構を回ってみよう!!

▼ 長崎のことを教えてくれるキャラクターを紹介します



おまがり先生

長崎の歴史を語らせたら右に出るものはいない。南蛮貿易時代に渡来。トレードマークは幸せの扉を開く鍵しっぽ(尾曲がり)。



ハト子さん

世界に平和を発信するのは私と決めている志高いお方、それがハト子さん。長崎市の鳥がハトになった際、1羽で祝杯をあげた。



グラパパ&
リンちゃん&
オルちゃん

あじさいが咲く頃、長崎に現れる仲良し親子。移り気な性格で、世界各地を転々と移動する。尊敬するお方はシーボルト。



ペン太くん

長崎観光のエキスパート。食歩歩きが生きがい。好物はミルクセーキ。時折、仲間を求めてペンギン水族館へと足を運ぶ。

【長崎の復興の歩み】

Q 長崎に原爆が投下された理由は？

長崎には、戦争に使用する武器や戦艦を生産、修理する軍需工場がありました。そのため、米軍の原爆投下目標の対象候補地の一つとなりました。8月6日に広島へ原子爆弾が投下されたのち、8月9日、2発目を積んだ爆撃機は福岡県の小倉を目標に飛んでいました。しかし視界不良のため、目的地が長崎に変更され、原爆が投下されました。

1945年8月9日 午前11時2分

原子爆弾が炸裂

死者 73,884人

重軽傷者 74,909人

罹災人員 120,820人

罹災戸数 18,409戸

原爆資料保存委員会の報告（1950年7月）

★ちなみに、原爆投下の候補地は17都市ありました。そのうちの一つの京都が外れた理由は、かつての首都であり、歴史的価値の高い文化財が集中する京都に原爆を落とすことで、アメリカに対する非難が高まり、占領政策に支障が出ると考えられたからです。

Q 長崎の街はどのように復興していったの？

原爆投下から1年後の1946年、国の復興計画の目標となる「戦災復興計画基本方針」に基づき、復興への歩みが始まりました。さらに、4年後の1949年8月9日、国が長崎市を「恒久平和の理想を達成するため」に国際文化都市と定め、原爆落下中心地及びその付近一帯を平和公園として整備することになりました。こうして復興が進んでいきました。



鍋冠山から望む長崎港の景色



世界新三大夜景に選ばれた長崎の夜景

Q 現在の長崎は？

古くから港町として栄えた長崎は、海外との関わりが多く、戦前から力を入れていた貿易、観光を中心とした復興が期待されました。

今では、稲佐山の夜景やグラバー園、眼鏡橋、ランタンフェスティバルなどの人気スポットやイベントがあり、国内外から多くの観光客が足を運ぶ魅力的な街となっています。

また長崎には、さまざまな被爆遺構が残されており、平和学習のために多くの修学旅行生の受け入れも行っています。現在は、多くの国と姉妹都市を通じて提携を結び、平和都市「ナガサキ」として世界中に平和の尊さを発信しています。



長崎ランタンフェスティバルのランタン



国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の「追悼空間」



眼鏡橋



グラバー園



野母崎総合運動公園の水仙



風頭公園の龍馬像



国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の水盤には夜間、約7万個の光が灯る

おすすめ
コース
の紹介

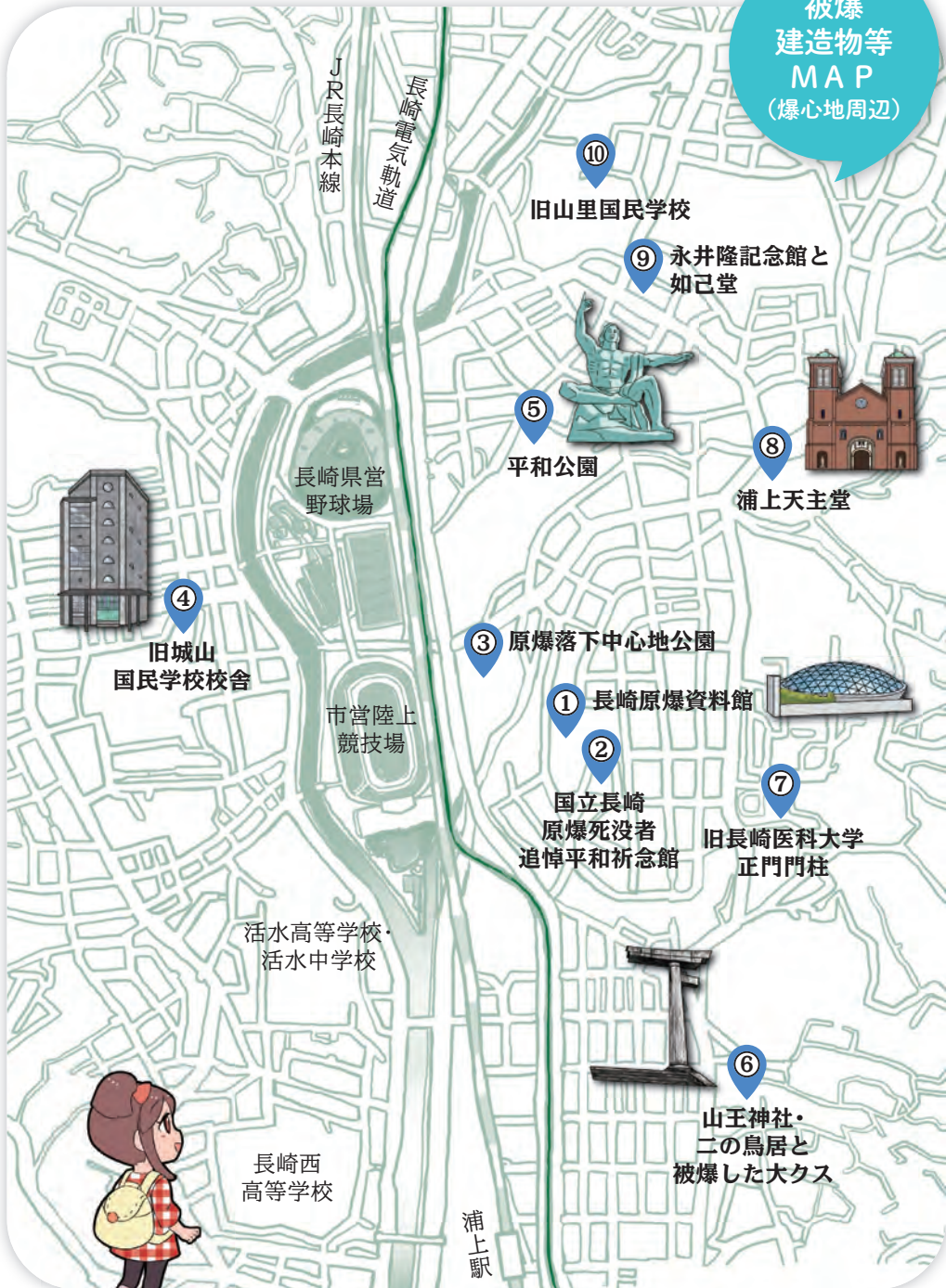
～実際に長崎を訪れて、
平和について考えてみよう！～

※両コースは、午前9時に見学をスタートした場合の参考例です。徒歩による所要時間は目安です。

一日コースは約3.7キロメートル、半日コースは約1.4キロメートルの道のりになります。水分補給を忘れずに！



被爆
建造物等
MAP
(爆心地周辺)



JR長崎本線

長崎電気軌道

10 旧山里国民学校

9 永井隆記念館と如己堂

5 平和公園

8 浦上天主堂

4 旧城山
国民学校校舎

長崎県営
野球場

3 原爆落下中心地公園

1 長崎原爆資料館

2 国立長崎
原爆死没者
追悼平和祈念館

7 旧長崎医科大学
正門門柱

市営陸上
競技場

活水高等学校・
活水中学校

6 山王神社・
二の鳥居と
被爆した大クス

長崎西
高等学校

浦上駅

① 長崎原爆資料館

長崎に落とされた原子爆弾(ファットマン)の原寸大の模型があります。開館当初は模型の色は濃い緑色でしたが、実際は黄色だったことから、被爆から70年の2015年に塗り替えられました。



▶ 開館時間:

(5~8月) 8:30~18:30 入館は18:00まで

(8月7~9日) 8:30~20:00 入館は19:30まで

(9~4月) 8:30~17:30 入館は17:00まで

▶ 休館:12月29日~31日

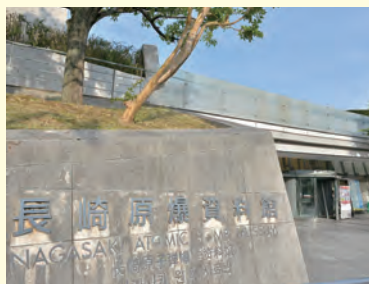
▶ 入館料:大人200円、小・中高生100円

▶ 駐車場:有料あり

▶ 住所:長崎市平野町7-8

▶ TEL:095-844-1231

※写真撮影はフラッシュをたかなければ可



② 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

原子爆弾の投下により亡くなられた方々を追悼し、世界平和を願う施設です。

水盤は被爆者の多くが水を求めたことから設置されています。その水盤は直径29mもあり、水盤の底には1945年末までの推計死没者数と同数の約7万個の光が灯されます。夜になると、ライトアップされ、静寂な時が流れています。



▶ 開館時間:

(5~8月) 8:30~18:30

(8月7~9日) 8:30~20:00

(9~4月) 8:30~17:30

▶ 休館日:12月29日~31日

▶ 入館料:無料

▶ 駐車場:有料あり

▶ 住所:長崎市平野町7-8

▶ TEL:095-814-0055





③ 原爆落下中心地公園

爆心地に造られた公園で、「爆心地公園」とも呼ばれています。左写真の石碑は、原爆で亡くなった人々の冥福を祈り、原爆の恐ろしさを忘れないようにとの思いを込めて建てられました。

爆心地付近は道路に亀裂が走っていましたが、不思議なことに真上からの圧力のためか、電柱も樹木も倒れないで立っていました。これが後に、爆心地を判定する手掛かりとなりました。

公園がある松山町には、当時約300世帯1860人の一般市民が生活していました。偶然にも防空壕に避難していた9歳の少女を除き、町内にいた全員が即死しました。

地層の中には、家の瓦・レンガ・熱で溶けたガラス・茶碗・針金などを見ることができます。



当時の地層

- ▶ 入園自由
- ▶ 駐車場：なし
- ▶ 住 所：長崎市松山町



原爆の被害は熱線、爆風、放射線に分けられるんだよ。まず熱線だけど、原爆の爆発時に火球が発生し、その後たった3秒で高熱が地上を包みこんだんだ。

恐ろしいね。火球の表面温度は約7000℃、中心部は数百万℃と推定されてるって聞いたことがあるわ。



そうだよ。太陽の表面温度は6000℃。原爆の恐ろしさが分かるよね。地形により違いはあるけれども、爆発後の地表温度は下の表に示したとおりだよ。

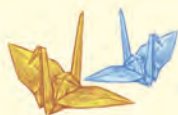
確か…、一般的なガラスは1300℃で溶けるのよね。怖いなあ。



爆心地からの距離	地表面の温度
0 km	3000～4000℃
1 km	1800℃
1.5 km	600℃



爆心地から200m以内で熱線を直接受けた瓦は沸騰して泡立ち、発泡状に。2000m以内では電柱や樹木は燃え焦げたんだ。市街地の3分の1を占める6.7km²が焼失したんだよ。



④ 旧城山国民学校校舎(長崎市立城山小学校)

爆心地に最も近い学校だったため、被害が最も大きかった学校です。被爆校舎は「平和祈念館」として開放されており、長崎で現存する被爆遺構で唯一当時のまま、中に入って見学できる施設です。また、学校内には「嘉代子桜」や「少年平和像」もあります。



- ▶ 開館時間: 9:30~16:30
(8月7日~10日は8:30~17:30)
 - ▶ 休館日: 12月29日~1月3日
 - ▶ 入館料: 無料
 - ▶ 駐車場: なし
 - ▶ 住 所: 長崎市城山町23-1
 - ▶ TEL: 095-861-0112
(指定管理者 城山小学校被爆校舎平和発信協議会)
- ※写真撮影可



少年平和像



嘉代子桜

2016(平成28)年10月3日、被爆校舎が長崎原爆遺跡の一つとして国指定史跡に選ばれました。

⑤ 平和公園

世界平和を祈念し、この祈念像は建てられました。

天を指す右手は原爆の「脅威」^{きょうい}、水平にのびた左手は「平和」を示し、軽く閉じたまぶたは戦争で亡くなられた方々の冥福を祈っています。毎年8月9日に長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が開催されています。



公園内の世界平和シンボルゾーンには、世界15カ国から寄贈された平和の願いを込めたモニュメントが建てられています。「平和は長崎から」を全世界に強く訴えています。

- ▶ 入園自由
- ▶ 駐車場: 有料あり
- ▶ 住 所: 長崎市松山町9



⑥ 山王神社・二の鳥居と被爆した大クス



爆心地からほど近い所にある山王神社。爆風で倒れたもう片方の鳥居も、そのまま残されています。

さらに奥へ進むと被爆した大きなクスノキが立っています。原爆で、幹に亀裂が入り、熱線で焼かれました。そのため、枯れ木状態となりましたが、奇跡的に生き返り、希望と平和のシンボルとなっています。ちなみに、この被爆クスノキを題材に、長崎市出身のアーティスト・福山雅治さんが「クスノキ」という曲を発表しています。

- ▶ 見学自由
- ▶ 駐車場: なし
- ▶ 住 所: 長崎市坂本2-6-56



クスノキ



爆風の被害を物語っているのが二の鳥居なの。原爆の爆発で中心の空気が瞬間的に熱せられ、周りの空気が膨張。強い爆風を引き起こし、建物や人々を吹き飛ばしたのよ。下の表は爆心地からの距離と被害状況よ。

爆心地からの距離	被害状況	最大風速
0.5 km	・ 強い鉄骨建造物が総つぶれ。屋根・囲壁がなくなる ・ 鉄筋コンクリート建物、耐震設計のもの以外は完全破壊	280 m/s
1 km	・ 家屋はほとんど原形とどめず	160 m/s
2 km	・ 2階以上の煉瓦建は全壊	60 m/s
3 km	・ 木造家屋の部分破壊	30 m/s



爆風で人々は吹き飛ばされ、全身に“散弾のような無数のガラスや木片”を浴びたの。倒れた建物の下敷きになり亡くなった人や、その後の火災で動けないままに亡くなった人。命が助かっても手足を切断され不自由を強いられた人もいらっしやったのよ。

爆心地では最大風速440m/sの爆風が起こったんだってね。走行中のトラックが瞬間風速40m/sで横転するくらいだから、その10倍以上って想像つかないよ。



⑦ 旧長崎医科大学正門門柱

現在は長崎大学医学部坂本キャンパスになっていますが、当時は長崎医科大学と呼ばれていました。

医科大学の正門の門柱は強烈な爆風により、約9cmもずれ、前のめりに傾いたままとなっています。この門柱の片方は山かけになっていたので無事でした。

門柱のそばに建てられた石柱には「原爆の爆風のもの^{すこ}の凄さを今尚^{なお}ここに見る」と刻まれています。



- ▶ 被爆遺構のみ見学自由
- ▶ 駐車場: なし
- ▶ 住 所: 長崎市坂本1-12-4

教職員や学生は逃げる間もなく、約890人が亡くなりました。講堂の焼け跡には、教官・学生が講義の時の位置そのままの姿で亡くなっており、中には犠牲者が白骨化していた教室もありました。



鐘楼

⑧ 浦上天主堂

天主堂は、1925年(大正14年)に完成。当時は赤レンガ造りの東洋一の教会といわれていました。天主堂の双塔は原爆の爆風で崩壊しました。二基の塔には鐘楼がついていましたが、一基は壊れ、一基は小川に落下。半分埋もれたような姿で今もなお横たわっています。

現在の浦上天主堂は、内部が一般公開されています。

堂内左右の窓には、キリストの生涯を描いた24枚のステンドグラスが設置されています。ミサのほかチャリティーコンサート、結婚式、バザー、夏祭り、クリスマス会などが行われています。

- ▶ 拝観時間: 9:00~17:00
- ▶ 休館日: 無休
- ▶ 入館料: 無料
- ▶ 駐車場: なし
- ▶ 住 所: 長崎市本尾町1-79
- ▶ TEL: 095-844-1777

※天主堂の中は写真撮影不可

⑨ 永井隆記念館と如己堂 によこどう

永井隆は医学博士であり、カトリックの信者でもありました。原爆で最愛の妻を亡くし、自らも被爆。白血病と戦いながらも、被爆者の救護活動を続けました。

被爆から約3年後、浦上の人々から贈られた2畳1間の小さな家・如己堂で研究を続けながら、『長崎の鐘』や『この子を残して』などの執筆活動をしました。2人の子どもと3人暮らしでした。

如己堂の名前の由来は、博士の座右の銘である「己の如く人を愛せよ」との言葉から。平和を願い続けた永井博士は、43歳でその生涯を閉じました。

如己堂外観。隣接する永井隆記念館は1階が博士に関する展示室、2階が図書室となっている。

- ▶開館：9:00～17:00
- ▶休館日：12月29日～1月3日
- ▶入館料(1F展示室)：
大人100円(団体80円)、
小・中高生は無料
- ▶駐車場：なし
- ▶住所：長崎市上野町22-6
- ▶TEL：095-844-3496



⑩ 旧山里国民学校(長崎市立山里小学校)

小学校の正門を入った左手に“あの子らの丘”という丘があります。この丘に建つ慰霊碑は、山里小学校の児童の被爆手記集『原子雲の下に生きて』を出版した永井隆博士が、子どもたちと相談して、原稿料の一部を出し合って建てました。碑文の文字は永井博士の書によるものです。

戦時中、激しい空襲から身を守るために、学校や付近に住む人々がこの防空壕に隠れて避難していました。

現在、校舎裏手の崖に掘られた防空壕が唯一残されています。

- ▶被爆遺構のみ見学自由
 - ▶駐車場：なし
 - ▶住所：長崎市橋口町20-56
 - ▶TEL：095-844-0785
- ※校舎内は立ち入り禁止です。



あの子らの碑



防空壕跡

参考文献等一覧

【プロローグ】

- ▶ 葉祥明『あの夏の日』自由国民社

【第1章 コラム】

- ▶ 戦争とくらしの事典編集室『戦争とくらしの事典』ポプラ社
- ▶ 岩脇彰編『平和を考える 戦争遺物 ① 子どもたちと戦争』汐文社
- ▶ 大石学監修『100人が語る 戦争とくらし 第1巻 子どものくらし』学研プラス
- ▶ 田代脩、NPO「昭和の記憶」監修『語りつぎお話絵本 せんそうってなんだったの? ③家族』学習研究社
- ▶ 田代脩、NPO「昭和の記憶」監修『語りつぎお話絵本 せんそうってなんだったの? ④学校』学習研究社
- ▶ 暮しの手帖編集部編『戦中・戦後の暮しの記録——君と、これから生まれてくる君へ』暮しの手帖社
- ▶ 長崎県史編集委員会編『長崎県史 近代編』吉川弘文館
- ▶ 長崎市史編纂委員会編『新長崎市史 第3巻 近代編』長崎市
- ▶ 長崎市役所編『長崎原爆戦災誌 第1巻 総説編 改定版』長崎国際文化会館
- ▶ 長崎市役所編『長崎原爆戦災誌 第5巻 資料編』長崎国際文化会館
- ▶ 高橋晴子『年表 近代日本の身装文化』三元社

【第3章】

- ▶ 鈴木達治郎、光岡華子『こんなに恐ろしい核兵器 ① 核兵器はこうしてつくられた』ゆまに書房
- ▶ 鈴木達治郎、光岡華子『こんなに恐ろしい核兵器 ② 核兵器のない世界へ』ゆまに書房
- ▶ 黒澤満『核軍縮は可能か』信山社
- ▶ 中村桂子『核のある世界とこれからを考えるガイドブック』法律文化社
- ▶ ニュースウィーク日本版「南アフリカのケースに学ぶ核放棄の条件」(<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/04/post-9890.php>)
閲覧日：2020年10月14日
- ▶ INPS JAPAN「核兵器の廃棄——南アフリカ共和国からの教訓」(<https://www.international-press-syndicate-japan.net/index.php/region/africa/553-abandoning-nuclear-weapons-lessons-from-south-africa-2>)
閲覧日：2020年10月14日

【ふろく】

- ▶ 長崎文献社編『長崎游学1「原爆被災地跡に平和を学ぶ」』長崎文献社